



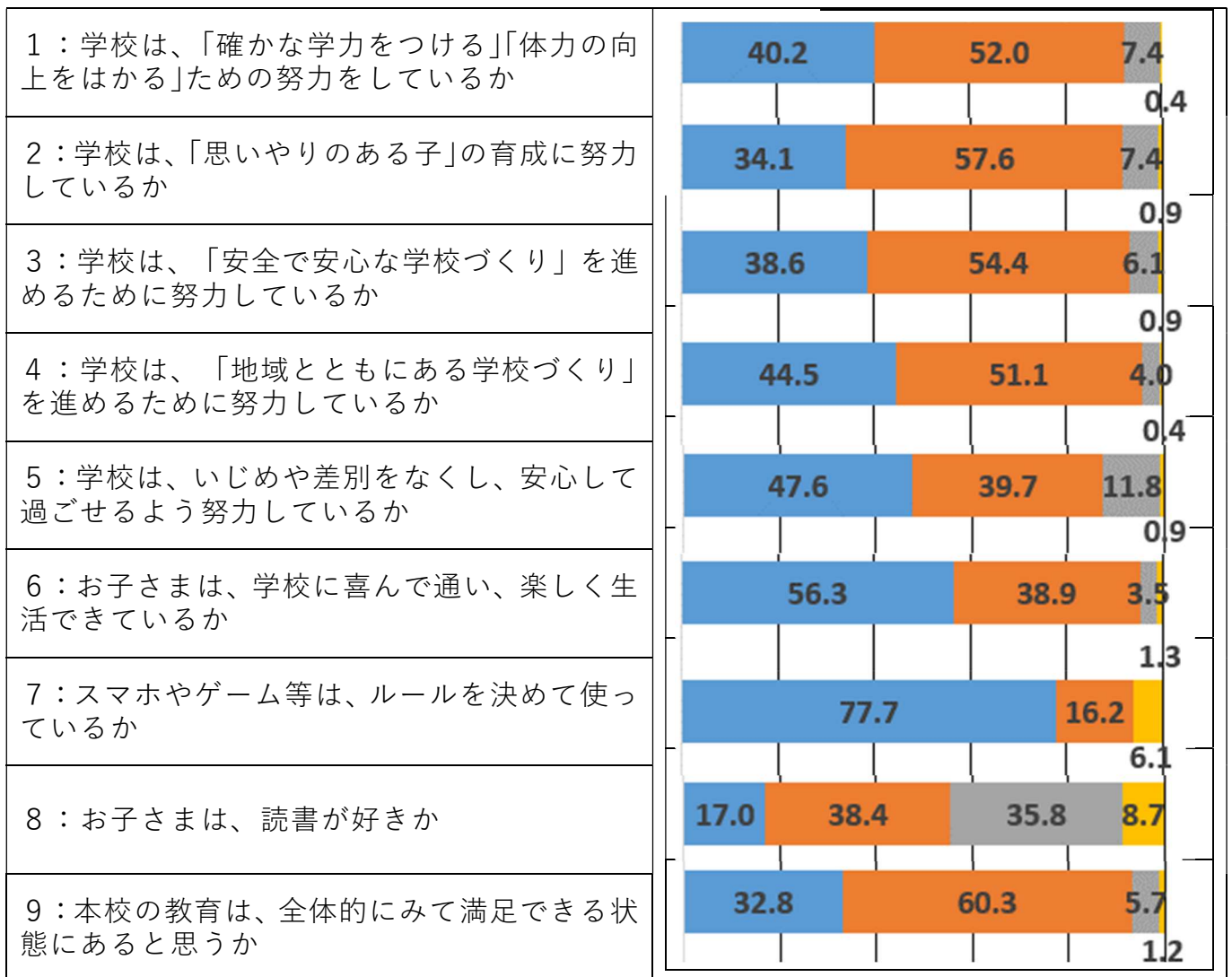
河小だより

四日市市立河原田小学校

第21号 令和4年2月14日

● 保護者アンケートへの協力 ありがとうございました

12月に本校の教育活動についてのアンケートを保護者対象に実施しました。ご協力ありがとうございました。アンケート結果をもとに、本校の教育活動をより良いものにするために、今後どのようなことを改善すればよいのか、どのようなことに力を入れていけばよいのかを校内で分析し、検討しました。紙面の関係上、一部ではありますが、今後の取組や方向性をお知らせします。【「そう思う」「だいたいそう思う」を肯定的な評価として分析をしました。また（ ）内の数値は昨年度との比較です。】



左から そう思う だいたいそう思う あまり思わない 思わない

- ① ほとんどの項目で肯定的な回答が90%を超えていました。また、「9：本校の教育は全体的に見て満足できるか」の問いに対しても、肯定的な評価が93%（昨年度比±0ポイント）でした。これらのことから、本校の教育活動はおおむね良好で、保護者の思いや願いと合っており、理解していただいているものと捉えました。これまで取り組んできたことをもとにより良い教育活動を進めてまいりたいと考えます。
- ② 今年度からGoogleフォームを使ったアンケートに切り替えました。学校としては集約やデータ処理等の負担は大変軽減されましたが、回答率が77%（-19%）とかなり低くなってしまいました。来年度は、すぐメールや懇談会での呼びかけ等、回答率を上げるための手立てを検討していきます。
- ③ 「1：確かな学力の育成」の肯定的な評価は92%（-1ポイント）、「2：思いやりのある子の育成」

の肯定的な評価は92%（+1ポイント）でした。肯定的な評価をして頂いたことの責任の重さを受け止め、現在の取組を土台に、さらに良い教育活動となるように教科指導及び人権教育を進めていきます。

- ④ 「3：安全で安心な学校づくり」の肯定的な評価は93%（+2ポイント）、「4：地域とともにある学校づくり」の肯定的な評価は96%（+4ポイント）でした。昨年度に引き続き、コロナの影響を受け、予定していた行事を縮小あるいは中止せざるを得なくなりました。その結果、保護者や地域の方に学校の様子を見ていただく機会はずいぶん減りました。にもかかわらず、昨年度よりも良い評価をいただきました。これは、担任からの連絡に加え、河小だよりや学年通信、学校ホームページ等を活用し、子どもたちの様子や学校の取組などをお知らせしたことが、良かったのではないかと受け止めています。今後も充実できるようにしていきます。
- ⑤ 肯定的な評価が90%に満たない項目は、「5：学校ははじめや差別をなくし、安心して過ごせるよう努力しているか？ 87%」と「8：お子さまは読書が好きか？ 55%」でした。
- ⑥ 「5：はじめや差別…」についてですが、昨年度までは「お子さまははじめや差別を受けていると思うか？ 思わない・あまり思わないが92%」という質問で、主語が「お子さま」でした。今年度から「学校は…努力しているか」と主語を「学校」に変えました。他の質問項目には学校の具体的な取組を明記してありましたが、この質問には学校の具体的な取組が記載してありませんでした。このため、**学校の取組が見えづらかったのではないかと**分析しました。
- ⑦ そのように考えた理由の1つとして、「6：お子さまは学校に喜んで通い、楽しく生活できているか？」の質問では95%（-1ポイント）の保護者が肯定的な評価でした。このことから、わが子は楽しく生活できているが、学校としてどのような取組をしているのか、実際困ったことが起こった時、学校がどのように対応してくれるのかが見えにくかったのではないかと考えました。
- ⑧ 実際、今年度の主な取組として、「**教師間の情報共有**を常に行う」「仲間づくりを中心に据えた**人権についての研修会**を学期に1度以上実施する」など、教員の姿勢や意識に関わることや、道徳の授業をはじめとし、教育活動のあらゆる場面で、**思いやりの気持ち**を育んだり、**相手の気持ちを想像**させたりするなど、子どもたちの人権意識を高める取組を進めてきました。また、学期の初めにははじめを受けていないか、困ったことはないかなど、アンケートを取ったり、学期に1回以上「**ぼかぼかタイム**」と称し、担任が子どもと1対1で話をする時間を確保したりするなど、はじめや差別を生み出さない、あるいは早期対応できるように取組を進めてきました。このような取組を通して、**児童アンケート「学校に行くのが楽しい」**の質問に肯定的に答えた児童の割合は、7月の84.1%から12月は88.8%と4%増え、12人増加しました。もちろん、「学校に喜んで通えている」に否定的な回答をしている児童が、約30名いることは重く受け止め、個別に丁寧に対応していく必要があることを全職員で確認しました。
- ⑨ 「9：お子さまは読書が好きか」の質問に対する**肯定的な回答は55%**（-8ポイント）でした。読書活動については昨年度までも本校の課題の一つでした。今年度はこれまでの取組に加え、家庭との連携を図った「夕読」や、「本DEパズル」「図書館スタンプラリー」等、読書推進をねらった取組を行いました。また、PTAからもたくさんの書籍を図書室に寄贈していただきました。しかしながらアンケートの結果は思わしくありませんでした。児童アンケートでも平日の1日当たりの読書時間が**10分未満の児童は37%**でした。一方で、平日の1日当たりのテレビ、ゲーム、動画視聴等の時間が**3時間以上の児童は31%**です。**ゲーム等を行う時間の一部を読書にあてられると、読書が好きな児童が増えるのではないかと**考えられます。学習習慣や読書習慣は、学力に大きく関連しているという調査結果もよく目にします。子どもたちのより良い学習習慣・読書習慣が身につくよう、ご家庭の協力を得ながら、新たな取組を考えていきたいと考えます。よろしくお願ひします。
- ⑩ 「7：スマホ等のルールを決めて使っているか」の質問では、「はい」と答えた割合が**78%**（-1ポイント）でした。今年度から市から貸与されたタブレットを持ち帰らせていることもあり、記述意見の中にも、その**使い方を心配**する声も上がっていました。学校でも使用方法やメディアリテラシー（使用時におけるマナーなど）の指導を行っていきませんが、家庭と連携を強化していく必要を強く感じています。
- ⑪ 児童アンケート「**自分には良いところがあるか**」という質問で肯定的な回答をした児童の割合は**80%**で、1学期末の79%と大きな違いはありませんでした。集会等では「自分や周りの人の良いところを見つけよう」と話してきました。また、学級活動の中で「よいところ探し」「**ハッピーレター**」「**4倍アナウンス**」等、子どもたちの自尊心を高める手だてを講じてきました。にもかかわらず数値としての結果にはつながりませんでした。
- ⑫ また、「**将来の夢や目標があるか**」という質問でも**肯定的な回答は85%**で、1学期末の87%から少し下がってしまいました。この質問は自尊心と密接に関わっています。将来の夢を持つことの大切さを語っていくとともに、授業や行事等を通して、子どもたちの活躍の場を設定し、人の役に立っているという自己有用感・自己肯定感を感じたり、周りから認められたり、やればできるという成功体験を積み重ねたり、達成感や成就感、学級の帰属感がえられたりするような日常的な取組を進めていきます。